

議事録 兼 報告書

会 議 名 称	伊那市上下水道事業運営審議会
日 時	令和3年3月8日（月） 18：30～20：05
場 所	伊那市役所 庁議室
議 事 内 容	
1 開会のことば 水道部長 2 委嘱書の交付 3 あいさつ 市長 4 自己紹介 ・審議会委員自己紹介 ・関係職員自己紹介 ・伊那市上下水道事業運営審議会条例の要旨説明 5 会議事項（（2）から議長 会長） （1）正副会長の選任について 委員から、事務局に一任したいとの発言があり、水道部長から事務局案を提案、委員の承認により決定しました。 ・会 長 岡野 哲郎 氏 ・副会長 柳澤 智美 氏 ・正副会長就任あいさつ （2）水道事業及び下水道事業経営健全化計画について ・資料により、事務局説明 ・質疑討論 （委 員）有収率の説明の中で、給水管からの漏水、特に宅内の給水管の漏水が大半と考えられるということでした。今、計画的にその調査を行っている最中ということですが、こういうことが分かった時の今までの対処というのはされてきているのでしょうか。 （事務局）漏水の確認ということで、現在水道メーターの使用水量の確認に行った際に、機械をあてて漏水の疑いがあるか調査を並行して行っております。そこで漏水の疑いがあるということになった場合は、職員が再度訪問して、本当に漏水の可能性があるか調査をしています。実際に漏水が確認できた場合は修繕を行っています。 （委 員）近年そういったことが行われるようになったということでしょうか。 （事務局）元々水道管というのは、本管を市で管理していて、本管から宅内へは個人が申請して取り出すということが基本となります。そのため本管から取り出した部分については自分の物ということになるわけですが、家の中で水さえ出れば漏れていても修理をしてもらえないことがありました。東京都や横浜市等では、漏水があった場合は全て自治体の水道事業で修理をすることを基本としていますが、伊那市は今までは個人で	

修理をしていただくことになっていました。しかし、中々修理が進まなかったため、現在は漏水を発見した場合は市の水道事業で修繕を行うようにしています。そのように変更してからは徐々に有収率も上がるようになってきています。検針時漏水調査は3年程度のサイクルで実施しており、漏水の分かったところは修繕をしています。こっちを修理すると別の箇所が漏水するということもあります。そのため新しく水道管を更新する場合は、なるべく本管に近いところに水道メーターを移設していただくような対応を行っています。

(委員) 有収率の72.6%という数字が出ていますが、目標はどうなっていますか。

(事務局) 有収率は水道が、上水道と簡易水道に分かれていて、上水道の目標が79%を目指しています。結果はまだこれからになりますが、78%程度にはなると思います。簡易水道は長谷や高遠、伊那では新山などがありますが、水はかなり余裕があるので、漏水が分かれば修理しますが、本管については積極的な更新はしていません。

(委員) そうすると今まで簡易水道と一緒にしないで考えていた時にはどの程度だったのですか。

(事務局) 簡易水道は、低いところは50%程度のところもあります。水道事業全体で考えると簡易水道事業の占める割合は1割未満のため、影響はそこまで大きくありません。

(委員) 簡易水道事業は以前特別会計でやっていたと思います。平成29年に企業会計化したということでしたがその理由は。

(事務局) 国の方針になります。令和2年までに全国の簡易水道事業については企業会計化しなさいということになっています。伊那市は平成29年度に企業会計化を行い、簡易水道事業の経営状況を明らかにしました。特別会計の時にも赤字分は一般会計から繰入を受けていましたが、企業会計となった後も一般会計から繰入を受けています。

(委員) 19市の水道料金のグラフの関係で、佐久市は効率的に事業を行うため企業団で行っていると思っていたが、水道料金は高くなっている。伊那市でも広域化についてどのように考えていますか。

(事務局) 広域化は、国も各都道府県を通じて推進しています。上伊那も企業団があり、昔から広域的に取り組んでいることがあります。水道の電算化などは昔から広域で行っていますし、水の水質検査についても企業団内に組織を作り、安価に出来るよう取り組んできました。広域化の目標をどこに置くのかによろしいと思いますが、最初から料金を統一するというのは大きな課題になると思います。現状は出来ることから始めましょうということで広域化の検討を始めている段階です。長野県の中ではそういった意味では進んでいる方ではないかと思っています。

(委員) 国の広域化に関する指導というのは以前聞いたことがありますが、何を意図しているのか見えない。本日説明のあったような内容を頑張って取り組んでいると思うので、良い部分を活かして広域化でやっていく方が賢いと思う。この審議会でも重要なことだとは思いますが、常に情報を流していただきながら検討していければよいと思います。

(委員) 未収金の削減ということですが、現状どのくらいの未収金がありますか。

(事務局) 最新の決算ということで令和元年度の数字になりますけれども、水道事業につきましては現年度分で調定額 1 4 億 5 千万円の内 2 5 0 万円程度、徴収率は 9 9 . 8 2 % になります。下水道についても同程度になります。

(委 員) 今の未収金の定義ですけれども、水道料金と受益者負担金等があると思いますが、それらも含めての収入ということになりますか。

(事務局) 水道料金、下水道使用料、受益者負担金それぞれで算定いたします。

(委 員) 3 部門の徴収率で県内 1 9 市の中で、3 年連続 1 位を達成しています。受益者負担金も平成 2 2 年度頃は 3 , 5 0 0 万円程度未収金がありましたが、今は約 6 0 万円まで減少しています。

(委 員) 徴収方法は伊那市では、水道料金や税金などそれぞれで対応していましたか。

(事務局) それぞれの部署で対応しています。

(委 員) そうすれば努力されているということですね。

(事務局) 全体の取りまとめは徴収対策室というところで行っていますが、徴収などはそれぞれの担当部署で行っています。

(委 員) そうすると不納欠損のようなものも水道部で対応されているのですか。

(事務局) 一定の要件の中で不納欠損は行っております。いつまでも不良債権を持っているのではなくて、適切に状況を見極めて対応を行っています。収納の方は後ほど出てきますが、伊那市の場合平成 23 年度から民間委託を行い、本庁舎 1 階で上下水道料金センターを運営しています。ただし困難案件については直接水道業務課で対応を行っています。

(委 員) 下水道の処理場の問題というのは、もう少し先のことを見通せば、考えが及ばなかったものでしょうか。例えば污水处理施設が分散しているものを統合するという計画が書かれていますが、統合するのに予算が必要になると思います。その辺の見通しというのは市の方でどれくらい出されているのでしょうか。

(事務局) 下水道事業は平成 19 年度に公営企業化しました。下水道事業でも、農林水産省や国土交通省など異なる省庁の補助金を受けて整備しています。最初は農業集落排水事業にしてみれば、地元の事業として、田んぼの水をきれいにしましょうということから始まっています。経営のことを考えて進めるのは、市の下水道事業で行うようになってからのことになります。平成 19 年度にそれまでの特別会計から公営企業会計に移行した時点では、累積赤字が 20 億円を超えていたわけですが、令和元年度の決算でようやく累積欠損金を全て解消することが出来ました。統合するのに確かにお金がかかりますので、近い所で統合してどれくらいで効果がでるのか検証して統合を進めています。一つは高遠の小原を統合していますし、団地汚水についても美原と殿島の統合を行いました。今年の 3 月に小出南部の統合を行い、美篤東部についても統合の検討を進めています。

(委 員) 統合の話について感じるのは、特に中山間地域で人がどんどん減ってきていて、山や田んぼが荒れたりしてきている中で、そこに人が住むかどうかはいろんな問題が絡んできていて、その中の一つがこの上下水道だと思います。下水道なら下水道だけを

見て統合するかどうかということを考えていくことも大事だと思います。ただもう少し上の視点から伊那市は地域をどうしていくのか考えてみることも大事なことで考えます。

(3) 令和3年度水道事業及び下水道事業会計予算について

- ・資料により、事務局説明
- ・質疑討論

(委員) 12ページの2段目のところに横山水源対策とあります。水源について伊那市はどこから取水しているのでしょうか。横山水源以外にも他に水源地はありますか。

(事務局) お配りしております伊那市の上下水道というパンフレットの6ページに水源地をまとめてあります。伊那市の場合企業団からの受水が約7割あり、残りを自主水源ということで取水をしています。

(事務局) 横山水源については表流水で、砂で緩速ろ過を行っています。雨が降ると濁りやすく、手間がかかるので、クリプト対策も併せて広域の水に切り替える工事を8次整備事業で実施してく予定です。

(委員) 全体の70%を箕輪ダムの方から取水しているということだと思いますが、地元で災害が起こって止まった場合にどうするかというのは大きな問題ですよね。昔は川の水もおいしくて飲んでいたじゃないですか、今は表面に流れている水は飲めないというようになってきている。お金がかかるということも分かりますけれども、そういうようなことも総合的にやって、地下水など飲める水なども富県等にあたりするので、広く見ていく必要があるのではないかと。

(事務局) ごもっともだと思います。8次整備ということで今年から始めますが、その前の7次整備事業では出来るだけ広域受水に切り替えていこうということを進めてきました。今は技術が進歩してきて、紫外線照射でクリプト対策が出来るようになってきたので、広域受水に切り替えるだけでなく、自己水源も使えるところは紫外線照射を行って災害に強い対策を行っていく予定です。

(委員) 伊那中学校に流れている水は以前はおいしかったと聞きます。子供たちも飲んでいましたが、ある時から飲まなくなっていると聞きました。理由を聞くと、上の方で肥料を撒いたりしているので、とても飲める状態の水ではないと聞きました。広域の水を買って使うということも良いが、自己水源もきちんと見ながら進めていくことも大事ではないかと。

(事務局) 水道の水は51項目の検査をしています。ミネラルウォーターは26項目なので、検査する項目も多いです。農薬についても検査を行っています。

(委員) 今のご指摘は私も大事だと思います。災害のことも考えると、地域の資源で地域に賄える比率を上げていくことは必要だと思います。伊那市は自然環境豊かな街ですので、将来的にはシンポジウムなどを開いてみるのもいいかもしれません。

(4) その他 特になし

6 その他

(事務局) 次回の予定ですが、概ね7月頃に予定をお願いしたいと思います。この審議会は、
料金改定の無い年は年2回くらい会議をお願いすることになると思います。

7 閉会のことば

副会長